

【道徳科・小6・「気高い心」 D よりよく生きる喜び】①

育成を目指す資質・能力

杉原千畝がユダヤ人たちにビザを出す決断をしたときの思いについて話し合うことを通して、人間の強さや気高さに気づき、よりよく生きようとする心情を育てる。

ICT活用のポイント

多面的・多角的な思考を通して、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることを意識した授業

【導入】

本時で扱う道徳的価値について、
問題意識をもつ

【展開】

教材文の範読を聞き、道徳的価値に
ついての考えをもち交流する

【展開】

道徳的価値に対する多様な意見を知り
学習のめあてについてもう一度考える

【終末】

道徳的価値に対する思いや願い、考え
を振り返る

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

- 一斉学習の場面において、児童が教材文に関する時代背景を理解できるように、プレゼンテーションソフトで作成したスライドを、大型提示装置で提示する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 思考を深める学習の場面において、児童が多面的・多角的に考えることができるように、デジタルホワイトボードソフトの付箋に、ビザを「出す」か「出さない」かの両方の立場で、理由を入力させる。
- 児童が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができるように、学習支援ソフトのファイル共有機能を活用し、入力した児童の考えを全体で共有させる。

【道徳科・小6・「気高い心」 D よりよく生きる喜び】②

【事例におけるICT活用の場面①】



- 教師は、ユダヤ人が置かれている状況や杉原千畝の立場についてテンポよく押さえることができた。
- 児童は、時代背景を視覚的に捉えることができた。このことは、展開において、杉原千畝に迫られた決断の重さの理解を促した。
- 導入は、教師が、収容所のベットの画像を大型提示装置に映し、問いかけることから始めた。児童は一斉に画面の画像に注目した。児童のつぶやきから、問題意識の高まりが、うかがえた。

- スライド作成は、画像等の情報の選び方や構成の仕方がポイント。
- 問題意識を高める教師の働きかけが重要。

【活用したソフトや機能】

- プレゼンテーションソフト
- デジタルホワイトボードソフト
- 学習支援ソフト
- ・ファイル共有機能

【事例におけるICT活用の場面②】



- 人前で話すことが苦手な児童が、考えを示すことができた。また、友達の手紙から新たな気づきを得ることができた。
- 教師は、児童の考えを一斉、リアルタイムに把握することができた。また、短時間で児童全員の考えを共有することができた。
- 共有の場面において、教師が「自分にはない考えがあるか」と問いかけたことは、児童が多面的・多角的に考えるきっかけになった。

- 短時間で書いて読めるように、手紙は、短い言葉で入力。
- ICT活用が、考え、議論するきっかけとなるよう留意。